

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「和を大切にする」を理念にしている。かかり付け医を継続して、地域とのつながりを大切にしています。ミーティング時に、利用者様への関わりも和を大切にすることで意識しています。</p>	<p>開設時より「和を大切にする」という理念を掲げている。毎月開催されるミーティング等でも折に触れて話し合い、全職員が理解している。さらに、理念をより具体化した「一日一笑い」というスローガンを日々の実践に繋げている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>毎年、ホーム主催の納涼祭を開催しており、地域住民の方に参加していただいております。施設内の見学をしていただき、交流の機会としています。日常的な挨拶や会話は増えています。</p>	<p>近隣は主に商業地であるが、ホームで開催する納涼祭に地域住民を招待したり、地域の祭りに参加をしている。散歩をしながら登下校の子どもにも挨拶することで、馴染みの関係を築いており、また、ウクレレ演奏ボランティア等の訪問も行われている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域住民の方から施設内を見学していただき、少しずつ知っていただく機会になっています。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の消防団に出席して頂き、交流の機会となりました。ご家族からの要望や質問に対して、運営推進会議の場で意見交換を行うことが出来ました。また、参加できなかったご家族には、議事録を送付し、全てのご家族に理解していただけるよう取り組みました。</p>	<p>行政、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表が参加している。開催は不定期であるが、事業報告や災害対策、サービス向上へ向けての意見交換等話し合いを行なっている。</p>	<p>「事業所から地域へ発信する場」として、2ヶ月に1回程度の定期的な開催が望ましい。年間事業計画に組み入れたり、行事や防災訓練と並行して開催する等、開催日の設定や議題の工夫について検討することを期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>県や市からの通達は、メールを活用し、情報提供をしていただいております。また、ホームの様子などで疑問が生じた場合は、速やかに連絡を行い、解決できるように協力を得ております。</p>	<p>市の担当者には運営推進会議に参加してもらったり、電話やメールで都度連絡を取り合っている。市の高齢者虐待検討会の一員としても連携しながら地域福祉の向上に取り組んでいる。平成24年度には市主催の地域密着型サービス事業者連携会議にも出席し、さらに連携を深めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画として、身体拘束廃止の研修を実施しています。日々のケアを見直しをして、身体拘束をしない取り組みを全員で行っています。	身体拘束について社内マニュアルに基づいた内部研修を実施したり、外部研修にも参加してその復命報告を行っている。日常の利用者への対応で気になることは、その都度職員間で確認し合い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画として、高齢者虐待防止の研修を実施しています。虐待につながるおそれがないように、職員同士が互いに気をつけるなど、話し合いをしています。市の検討会に参加しております。	ミーティングの際に高齢者虐待防止についての研修を行っており、職員は日常における不適切な言動も虐待にあたると認識して自らのケアを振り返り、虐待防止に努めている。管理者は市の高齢者虐待検討会の一員であり、復命研修も予定している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	補助の対象の方がおり、成年後見人の担当者と話し合う機会があります。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や料金改定時には、ご家族様に十分な理解を得られるように、説明をしています。また、文書で記録を残すようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの苦情相談に対して、改善に取り組んでおります。事業所や本社に相談窓口を設置し、苦情相談内容を確認して、運営に反映できるようにしています。	日頃から利用者の話すことや意見を尊重しており、家族からも面会時や電話で積極的に意見を伺うようにしている。また会社全体および事業所単位で家族アンケートを実施し、その結果については検討して改善に努めるとともに、広報誌で公表している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを実施し、実際に発生した課題や研修テーマに沿って、意見交換をしています。レポート提出で、意見を活用できるように取り組んでいます。	ミーティング等、職員が意見を出せる機会を設けており、そこで活発な意見交換が行われ、出された意見は運営に反映させている。日常においても管理者と職員とは気兼ねなく意見を伝え合える関係が築かれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、事業所巡回を行い、把握に努めており、職場環境の整備に努めております。社内研修のシステムもあり、向上心を持てる職場になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ツクイ資格取得制度があり、積極的な資格取得に向けて、取り組んでいます。また、毎月の内部研修の実施と外部研修への参加も多く、研修の確保は出来ております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で交換研修を毎年実施しています。また、外部の県介護福祉士会や認知症実践者研修からの実習生の受け入れをしています。実習生と意見交換をすることで、外部の意見として、サービス向上に取り組んでいます。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の聞き取りで、自宅での過ごし方に近づけるように、配慮しています。また事前にホーム見学も対応させていただき、相談しながら、信頼関係に努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や気持ちに沿うことができるように、連絡をこまめに行い、相談しながら決めるようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「必要としているサービス内容」を見極めて、判定会議で確認するようにしています。他のサービス利用も含めて、検討しています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に支援することなく、協力関係を持ちながら、家事などの共同作業を行っています。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭や敬老会に多数のご家族から参加していただき、交流の機会は確保できています。また、ホームの様子を手紙や広報誌でお知らせをして、個別に相談させていただいております。ご家族様と協力しながら運営に努めております。	納涼会や敬老会等、行事の際は家族にも参加してもらえるよう声をかけ、また、面会時には居室で利用者と一緒にゆっくり過ごせるよう配慮している。2ヶ月ごとに送付する広報誌には担当職員が本人の現況を一言添えたり、受診時の情報を共有するなど、家族とのコミュニケーションを密にして関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかり付け医を継続して、今までの関係や繋がりを大切にしています。また、ご家族様との外出や定期的な外泊の機会もできています。	利用者一人ひとりにとっての馴染みの人や場所については本人や家族から得た情報で把握しており、職員間で共有している。本人の希望に沿って定期的に自宅に帰ったり、通い慣れた図書館等へ出かける支援をしている。特に家族等との関係が途切れないよう手紙、電話、FAXを活用して支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりも多い中で、ちょっとした意見の衝突もあります。その場合はお互いの立場を尊重したり、雰囲気大切にそのような配慮をしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、今後のことを相談したり、サービスの紹介をするケースがありました。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向を把握し、調整しながら進めています。また、職員一人ひとりが気づきを持って、普段の会話や様子から、必要な支援に繋がるようにしています。ご本人様がどうしたいかを大切にしながら、検討しています。	職員は利用者の日常的な会話の中からその人の希望や意向を汲み取るよう努めており、困難な場合は家族の協力も得てその実現に向けて本人本位に検討している。把握したことは申し送り等で共有している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご自宅での様子や、サービス利用中の事業所等からも情報提供を依頼し、生活習慣の把握に努めております。家族面会時に近況をお伝えし、お話を伺うようにしています。	入居前に自宅訪問をして本人・家族から聞き取りをしたり、在宅で利用していたサービス事業者からも情報を得ている。入居後に得た本人および家族からの情報は記録に残すことで全職員が共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、これまでの生活習慣を大切にすると共に、改善点の視点もあわせ持つようにして、ミーティングで話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングの中で、カンファレンスを毎回実施し、状況変化や改善に向けてチームで取り組んでいます。日々の本人様の現状を把握して、反映させた介護計画を作成しています。	本人及び家族の意向を踏まえ、職員の意見やアイデアを取り入れて現状に即した介護計画を作成している。ミーティングの際に全職員で3ヶ月ごとにモニタリングを行い、12ヶ月ごとに計画の更新をしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきは、個別記録や業務日誌に記入し、情報の共有を行っています。実践も早急に取り組んでいます。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と協力しながら、病院の付き添いなど柔軟な対応で取り組んでいます。また、重度化した場合には、往診のできる医師に変更するなどの調整をしています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共施設を外出時の休憩場所として、活用しています。地域のお祭りも社会資源のひとつとして、毎年参加しております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族様の希望を踏まえて、主治医を決めています。今までのかかりつけ医を継続するケースが多く、関係を大切にしております。また、状況に応じて、往診のできる医師に変更できる体制で支援しています。緊急時の受診対応も行い、医療機関との連携に努めています。	基本的に本人や家族に馴染みがある、入居前からのかかりつけ医を継続している。家族が受診の付き添いをする際は本人の状態を記載したメモを渡し、適切な医療が受けられるよう支援するとともに、家族とも情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化は介護職員しか分からないこともあるので、気づきを医療面に繋げられるように、意識しています。水虫や擦過傷などの日常的な処置については、専門医や看護師からの指示で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ホーム職員も同行し、病院関係者と情報交換を行っています。状態の把握を面会時に行い、スムーズな受け入れができるように、連携を図っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、ご家族と相談し、意向を確認しています。ホームで出来ること、できないことを説明し、関係機関の協力が必要であることを伝えていきます。看取りの実施もあり、職員の意識も基本的には最後まで過ごしていただきたいと思っています。	入居時に重度化についての指針を示して事業所でできること、できないことについて説明し、了解を得ている。介護計画更新時や面会時に家族の意向を確認するようにしており、重度化した場合は本人および家族の意向に沿えるようかかりつけ医など関係機関とも相談しながら支援している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、普通救急法の講習会を受け、心肺蘇生法や窒息時の対応を学んでいます。24時間オンコールの看護師も配置しています。	全職員が毎年消防署よりAED使用方法や心肺蘇生、急変時の初期対応等について講習を受けている。看護師に常に電話で連絡が取れる体制も整っている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定で避難訓練を実施しています。地域の消防団の方との連携についてはH23年11月の運営推進会議で依頼し、施設内の避難口を確認して頂き了解して頂く。またご近所さんへもH24年8月に施設内の見学、避難口の確認、救助時の協力を同時に依頼しました。	避難訓練は、日中・夜間それぞれを想定して実施している。地域の消防団および近隣住民にも災害時における協力を依頼している。	地域の消防団や近隣住民とは、日頃から協同で地域の緊急連絡網を整備したり、実践的な避難訓練を行って災害時に備えることが望まれる。また、火災だけでなく地震や水害などあらゆる災害への対応の検討も期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を毎年受けており、個人を尊重する態度や言葉について、日々気をつけております。記録も利用者の目の前では記入せず、保管場所も適切にしています。排泄の言葉かけについても自尊心に配慮して行っています。	接遇の研修を実施しており、排泄や入浴支援時の声かけ方法や洗濯物の干し場所等、個々の利用者について検討を行い、自尊心を損ねないよう配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	図書館の外出希望があり、定期的に出かけるようになりました。利用者の気持ちを受け入れてから、次にどう行動するかを判断するようにしています。自己決定を大切にしながら、必要な支援を働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先することにより、その人のペースが乱されて、支障が生じる場合があります。例えば、帰宅の希望が強い時などは、調理作業を中断して、じっくり相手の話を聞いてあげて、意識しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や整容に気を配り、身だしなみの支援をしています。また、ご家族に不足しがちな衣類の用意や衣替えのご協力をお願いして、季節に合わせた衣類を用意しております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者のメニューが中心ですが、週1回は希望を取り入れてオリジナルで提供しています。畑で取れた食材も使用しています。準備作業も手で千切る作業を大勢でしたり、配膳や盛り付けなどは、出来る方に協力してもらい、共同作業で取り組んでいます。	食材は業者から配達してもらっているが、週に1日は利用者の好きなものを作る日を設けている。利用者はそれぞれが調理や配膳など役割を持って職員と一緒に食事作りを行っている。食事の時はテレビを消すなどして、会話をしながら食事を楽しめるような環境づくりに取り組んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給が少ない方への配慮として、お茶ゼリーや夜間のこまめな水分補給に心掛けています。必要な場合は、水分チェック表を活用しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアをして頂き、上手に出来ない方は、声かけや支援をしています。歯ブラシ、コップも毎日消毒しています。歯科検診を年1回受けており、治療が必要な方は受診しています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別のケアの実施として、声かけや誘導、介助等を行い、一人ひとりに合わせた内容としています。退院時に、オムツ使用していた方も、段階を踏んで、トイレでの排泄につながれたケースがあります。	チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しており、その人に応じて自立へ向けた支援をしている。ホームでの支援により、病院ではオムツを使用していた利用者がトイレで排泄できるようになった例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用の方は、便秘や下痢症状に気を付けて確認をしています。必要であれば、下剤の変更を医師に相談しています。また、適度な運動を取り入れ、テレビ体操や腹部マッサージを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて、夕食後に入浴している方もいます。また入浴を嫌がっていた方は、言葉かけに配慮することで入浴回数が増加して、皮膚状態の改善にも繋がりました。	職員体制を整えることで毎日就寝前に入浴してもらおう等、利用者の希望や習慣に合わせた対応を行っている。清潔保持の面からも積極的に取り組んでおり、入浴を好まない利用者にも言葉かけを工夫しながら入浴につなげている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールと自室の行き来を自由にされ、休みたい時に休んでもす。西日除けのすだれや、エアコンの風が直接当たらないようにする工夫をしています。夜は、歌番組やドラマなどのテレビを見てから、入眠されています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや飲み込むところまで、確認しています。処方薬が変更になった場合は、内容を確認し、しばらく様子観察など注意を払っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗い物、掃除などの家事を分担して、それぞれの役割として自主的にされています。季節の行事では、ご家族の参加もあり、全員で楽しむ機会を設けております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて、図書館に出かける方がいらっしゃいます。季節に合わせた行事として、外食や公園散策などに出かけています。また、定期的に自宅外泊される方もおり、希望に添うように努めています。玄関の洗濯物干しや畑など敷地内を一人で出入りされている方もいます。	洗濯物干しや戸外への散歩等、日常的に戸外へ出ており、全員で外出する行事も定期的に行われている。家族の協力を得て自宅への一時帰宅や外食など、利用者個別の希望に沿った外出支援も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している方は、嗜好品などを、ご自分で購入をされていますが、基本的には、通院費などは、ホームで立替払いの支援となります。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日や敬老の日、暑中見舞いなどは、ご家族との交流が図れるように手紙の機会を設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は草花で飾ったり、共用空間からは外の景色が眺められ、自然な作りになっています。窓辺にソファを置いて、くつろげる場所としています。ピアノがいつでも弾けるようにキーボードを用意して演奏を楽しまれています。畳スペースは利用者が横になり、冬場はコタツで休んでいます。	居間の大きな窓からは自然の風景が堪能でき、移りゆく四季を楽しむことができる。共用空間ではソファで新聞を読んだり、畳の小上がりで足を伸ばすなど、利用者それぞれが思い思いの場所でくつろいで過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の自席は、気の合った利用者同士で過ごせるよう配慮しています。また、窓辺のソファは夫婦でも過ごせる場所、畳スペースは洗濯たたみや休息する場所として活用しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に置いてある使い慣れたものを持ち込んでいただいたり、家具なども同じ配置にする工夫をしています。また、壁には、思い出の写真飾って、装飾を楽しんでいます。	入居時に自宅で使い慣れたものを持ち込んでもらうようにしており、家具の配置も自宅と同じようにすることで混乱が生じないよう配慮している。壁や棚には一人ひとりの好みの装飾や写真が飾られ、その人らしい居室作りがなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内で転倒があった場合は、環境の見直しをその都度行い、ライトや手すりなどの活用を取り入れたり、付き添いの徹底で安全な環境作りを目指しています。		